

むらまち通信

第110号

2013年2月25日 発行



「冬の豊平川河川敷を歩こう」を実施しました。



○ 実施状況

- ・日 時：平成25年2月24日（日）10時00分～
- ・場 所：八剣山果樹園 → 砥山栄橋 → 豊平川河川敷
→ 八剣山の麓 → 八剣山果樹園
- ・主 催：八剣山発見隊
- ・参加者：8名（原口、平田、志田、丸谷、紺谷、瀬戸、小川、塚本）

八剣山の周辺では1週間ほど前から雪が降り続いており、今日も朝から雪が降り続いて、八剣山果樹園からそびえ立つように見える八剣山も、時々降る雪に隠されて見えなくなるほどに降る雪が強くなる時もあります。小金湯の観測所では積雪が120センチを越えています。

八剣山果樹園の山小屋に集合し、各自で寒さ対策のための完全武装をしてスノーシューを履いてから、降りしきる雪の中に足を踏み出しました。

道路の両側は1メートルを超える雪の壁となっており、砥山栄橋から豊平川河川敷へ降りるためにその壁を乗り越えてから少し急な坂をゆっくりと下って行きました。

砥山栄橋の下をくぐって河畔林に入ったところで後ろを振り返ると、雪の重みで倒れかけている細い木々の向こうに、降りしきる雪で霞んだ砥山栄橋が見えていました。

豊平川の河川敷を川の流りに沿って歩くと、この季節でなければ見ることでできない、自然が作り出す素晴らしい景観を見つけることができます。

流れる川の中にできた雪の帽子をかぶったモニュメント。川の水面から顔を出している岩に雪が降り積もり大小様々な白いキノコのような自然の造形物を川のあちこちで見かけたほか、崖の中腹には地下水がしみ出して凍りついた青く透きとおった氷柱を見かけることができました。

この季節の豊平川河川敷には地元の人も来ることはなく、川の流れと水面を飛んだり木の枝に止まった小鳥の鳴き声がかときき聞こえる以外は、私たちのスノーシューで雪を踏みしめる音だけの、静寂に包まれた空間でした。



自然のモニュメント

崖からしみ出て凍った氷柱



降りしきる雪の中を下る

霞んで見える砥山栄橋



流れる豊平川をバックにした参加者の皆さん



発行：塚本むらまち計画研究室
主 宰 塚 本 保 弘

061-1276

北広島市大曲緑ヶ丘6丁目10-10

携帯電話：090-7515-7057

E-mail : fhuka@rose.ocn.ne.jp